

**高塚熊野神社**  
**神社広報**  
 静岡県神社庁  
 浜松支部  
 高塚熊野神社  
 第34号(R5.12.1発行)



高塚熊野神社  
宮司  
戸塚昌宏

感謝の心「ありがとう」

今感謝の心を言葉にすると「ありがとう」となります。日本語の中で一番美しい言葉だと思います。「ありがとう」を漢字で書くと「有り難う」有る事が難しいと書きます。つまりめったに無い、稀に有るという意味です。めったに無い事、稀にしか無い事だから尊いと思うし、嬉しく思うのです。当たり前の事、普通の事、当然の事と思う心からは感謝の心は生まれません。私たちは、自分の尺度で、当たり前の事、めったに無い事と振り分けて感謝をした、しなかつたりします。

しかしよく考えれば、人生には何ひとつ当たり前の事は有りません。



今年も鈴鳴会の皆様を中心に立派な茅の輪を製作していただきました。

総てが稀な事のつながりです。大自然からみれば泡粒のような人生でも、この世に生を受けた以上、次の世代へ何かを残して死んで生きていくと願うのが我々の自然な心ではないでしょうか。

神様は、本来この世に無駄な人は一人も作ってはいないはずで、「有り難き事」に感謝して、自分なりに一生懸命生きて、次の世代に何か残せるように、日々感謝の心「ありがとう」で暮らしましょう。

誰しもが親は二人、祖父母は四人、曾祖父母は八人、と言う身近な先祖、十代前の一〇二四人、二十代前の一〇四八五七六人の遠い先祖。今自分が存在しているのは、無限の御先祖様のお陰です。年末年始は家族揃って、素直な心で神様、御先祖様「ありがとうございます」と言いたいものです。

たかつか熊野夏祭り

夏詣、七夕祭を初開催!

6月28日  
~7月7日

夏越の大祓

|| 茅の輪神事

6/30

毎年恒例となった茅の輪神事。正月から半年間の間に身に付いた穢れを払い清める祭祀です。あいにくの天候にもかかわらず、多くの皆さんが参列されました。



夏詣・七夕祭

7/1~7/7

年の初めの「初詣」に習って、一年後半の無事を祈る「夏詣」が全国の神社で始まっています。高塚熊野神社でも、今年から七月一日〜七日の一週間を夏詣期間とし、専用の御朱印



願い事がかないますように!  
(夜間ライトアップ7/1~7)

なども用意しました。合わせて七夕祭を開催し、七夕飾りを施した二本の笹竹は、期間中に訪れた四百人以上の方々が結ばれた短冊でいっぱいになりました。特に、最終日夕刻の七夕祈願祭は、ご家族連れやカップルなど多くの参拝客で賑わいました。



巫女による神楽舞に見入る子供達(七夕祈願祭7/7)

# 10月6日～8日 たかつか熊野秋祭り 四年ぶりのフルスペック開催

新型コロナウイルス感染症の規制が解除され、屋台の巡行や手踊り等の祭礼が復活する中、神社でも投げ餅神事が四年ぶりに斎行されました。また、新たな試みとして、福引、雑菓子、輪投げ、スマイルボールすくいの四つの店舗を出店し、たくさんの子供さん達が来場しました。

## 産子祭 (六日十八時)



この一年間に高塚の地で産まれた赤ちゃんたちがそろうって氏神様に詣で、健やかな成長を祈る祭りで、四組の皆さんが参列されました。

## 宵宮祭 (七日十五時半)

毎年新たに生まれ変わった神様が、本祭(例大祭)の前の夜(宵)に降臨するとされています。そして、この神様を本殿にお迎えする重要な祭祀が宵宮祭です。



舞姫による神楽舞 (幣殿にて)

## 安全祈願祭 (七日七時半)

神職、氏子総代、たぐ美の皆さんで、二日間の屋台巡行の安全を祈願しました。久しぶりに見る屋台に気持ちが高まりました。



## 鎮守の杜コンサート (七日十七時)

今年も、戸塚典永権禰宜が指導にたずさわる浜松市立高枝吹奏楽部(一、二年生四十八名)をお迎えすることができました。五月には「どうする家康」武者行列の先頭を行進し、中部日本吹奏楽コンクール県大会でも優勝というレベルの高い演奏に、遠方からも来場された多くの皆さんが酔いしれていらっしゃいました。



夕陽に映えて!!

## 出店 (八日十時)

氏子総代と、神社の崇敬団体である鈴鳴会、紅梅会の皆さんが協力して出店しました。屋台の引き回しに参加できない小さなお子さん達が、開店を待ちわびてつめかけ、ご両親とともに楽しんでいらっしゃいました。



入れ～。



わたがしゲット!



金魚すくえたよ!



松阪牛当たるかな。

### 例大祭 (八日十四時)

一年で最も重要な祭祀を例大祭と言います。四年ぶりに幣殿・拝殿を埋め尽くす多くの来賓の皆様をお迎えし、厳かな雰囲気の中で祭儀が斎行されました。

その後、住民の皆さんから応募があった舞姫七名と巫女による舞の奉納、そして、氏子の皆さんの平安を祈る投げ餅神事が行われました。



↑神饌物の神前(本殿)への奉納  
←雨天にもかかわらず多くの人々が参加した投げ餅神事(例大祭祭祀後に斎行)



### 氏神様に

### 七五三参り

11月11日



拝殿前でご両親と記念撮影



たかつか光こども園の皆さん

三歳、五歳、七歳のこどもの健やかな成長を氏神様に感謝する祭です。本来は、十五日が祭の日ですが、十一日の土曜日の十二名をはじめ、その他の日にも多くの方がお参りされ、ご祈祷の後、千歳飴や破魔矢などをいただきました。

### うんちくを語る

「七五三」、十一月十五日に参詣するのはなぜなの？

○最も有力な説は、「天和元年(千六百八十一年)十一月十五日に、犬公方として有名な五代将軍徳川綱吉が、長男徳松の健康を盛大に祈願したのが七五三の起源とされるから。」というものです。

七五三が、江戸時代までは関東地方の地方風俗であり、大正期以降に全国化したという事実と符号する説です。

○「旧暦十一月は収穫を氏神に感謝する月であり、満月の日である十五日に、収穫の感謝を兼ねて子供へのご加護を祈るようになったから。」という別の説があります。

○また、「旧暦の十五日は鬼宿日(さしゅくにち)と呼ばれ、鬼が宿に泊まっていて出歩かないので、何事をするにも吉の日であったため。」という説もあります。

○諸説ありますが、現在では十一月十五日にこだわらず、ご家族の都合の良い日に行くことが多くなっています。



### トピックス (話題)

### 「朱」に染まるご社殿

七月、黒褐色であった幣殿から本殿にかけての階段・床・柱を朱色に塗り替えて明るくなりました。「朱色」は、熊野新宮大社、那智大社の社殿の色であり、当神社の拝殿、鳥居などはずでに朱色となっています。



手前と中の階段までが幣殿。その先に見える狭い階段から奥が本殿。

### 女性神職誕生

これまで、戸塚家の宮司・禰宜(ねぎ)・権(ごん)禰宜の三名が本神社の神職でしたが、この度、巫女として勤務していた堀江さんが、神職の資格を取得。四人目の神職となりました。



初々しい神職姿の堀江さん

# お知らせ

## あなたは神社の氏子？

「熊野神社の今後の運営・維持のあり方を考える会」報告

「あなたは、高塚熊野神社の氏子ですか？」と問われて、即答できる高塚町民は意外と少ないのではないのでしょうか。実は、神社としては、「高塚町に住む人全員が氏子」という立場を取ってききました。氏子とは、自分の住む土地を守る氏神を信仰し、氏神社の手伝いをしたり、寄付をする人のことを言います。多くの皆さんは氏子であるという自覚がないまま、神社の運営費である初穂料を納めたり、神札の注文取りや門餅配布などの神社のお手伝いをされていることと思います。

しかし、宗教法人としてみると、「氏子入り」「氏子登録」という言葉が示すように、氏子になるかならないかは本来個人の意思で決めることであり、「全員氏子」と決めつけるのは「信教の自由」という側面から考えても無理があります。

一方、全国的に見れば、氏子の減少によって運営に苦しむ神社が増えて社会問題化しており、神社としては一人でも多くの方に氏子になって欲しいというのが本音です。熊野神社でも、神札の購入者や寄付金奉納者

は減少しており、この問題をおさなりにしておくことはできません。

神社では、こうした相矛盾する問題等に対する近隣神社の取組事例を聞き取りした結果を参考に、本年度より、氏子総代及び地域住民の代表（自治会役員など）の皆様との意見交換の場を設定し、これまでに二回の会合を持ち、今後も数回の会合を予定しております。その場で合意された提案事項を、班長会や班別総会などで説明させていただき、皆様からのご意見もいただいで、より発展的な神社と高塚住民の皆様との関係を築いていきたいと考えています。是非、ご意見、ご質問等をメールでお寄せいただければ幸いです (takatsukakumano@yahoo.co.jp)。

## 大被 (十二月三十一日十四時)

この半年間に身に付いた穢れを祓う大被が行われます。人形(ひとがた)に穢れを移す神事に参列し、清らかな身で、新年をお迎えください

## 篝火祈願祭・除夜祭

(十二月三十一日二十三時)

篝火を焚いて年神様をお迎えする祭です。是非、拝殿前の大篝火で福餅を焼いて召し上がって下さい。なお、除夜祭は、一年を無事過ごせたことを感謝する祭です。

## 令和六年 初詣

元旦零時から太鼓を合図に初詣客をお迎えします。

福餅(二個セット)、御神酒とお子様にはお菓子の振舞いがあります。

### 【新年初祈禱の受付け】

- ・元旦午前零時より
- ・御祈禱料 三千元
- ・種類 Ⅱ家内安全・商売繁盛・交通安全・厄除祈願・良縁祈願等
- \*「御神札」「お守り」「おみくじ」なども授与所にて零時より頒布致します。

**ご家族お揃いで  
ご参拝ください。**

## 焼納祭 (一月十五日九時)

四月にお知らせした通り、正月飾り、神棚等の「お焚き上げ」を復活します。共に年神様をお送りしましょう(詳しくは、二十日の回覧をご覧ください)。



## 四季の被の会

年四回「四季の被の会」を開催しています。毎回、宮司の話を楽しみに参加される常連の皆さんも多くいらっしゃいます。混迷した現代を生き抜くための知恵やヒントがきっと神道講話から見つかることでしょう。

### 『第四十三回 冬の会』

- 一、日時 令和六年一月二十七日(土) 午後六時三十分
- 一、場所 熊野神社拝殿
- 一、内容 ①全員で「大被詞」奉唱 ②宮司による神道講話
- 一、参加費 無料

どなたでもお気軽にご参加ください。

### 神道墓苑のお問合せ

小沢渡町神道共同墓苑管理事務所  
浜松市南区小沢渡町一七九〇番地  
☎ 〇五三・四一五・〇七一七



【神社広報 第三十四号】

令和五年十二月一日

編集・発行 高塚熊野神社

(宮司) 戸塚昌宏

高塚熊野神社事務所

☎ 〇五三・四四八・二二八八